



マレーシア航空 (MH) 370 便事故 最終報告書

1. MH370 行方不明事故の最終報告書

オーストラリア運輸安全委員会 (ATSB) は 2017 年 10 月 3 日、MH370 便事故の最終報告書を発表しました。これまでの発表の総纏め 440 頁という内容でした。

以下にその抄訳を示します。

2. 事故の概要

2014 年 3 月 8 日、クアラルンプール発北京行き MH370 便は、227 名の乗客と 12 名の乗員を載せ、最初の 38 分は正常に飛行していました。マレーシアからベトナムに管制移管の指示を受けたあと、同機の無線 (音声) 通信、レーダー応答装置 (ATC トランスポンダー)、データ通信 (データ内容の部分) の連絡が途絶えました。軍用レーダー画像 (機体の反射像) では右に 40 度旋回し、続いて左に 180 度旋回し、マレー半島を横切りペナン島方向に向かっています。その後北西方向に進路を取り、離陸後 1 時間 40 分でレーダーより機影が消え、行方不明となりました。唯一残った痕跡は衛星通信の接続確認の自動交信で、基本的に 1 時間に 1 回続きました。最後の 2 回は 40 分と 8 分に間隔が短くなっており、通信が途絶えたあと約 7 時間飛び続けたことを示しています。この衛星通信のやりとりの往復時間より通信衛星からの距離を算出し、円弧 (Arc) が 7 つ地図上に投影されました。(ALPA Japan News 40-17 に図があります。) 飛行機と衛星の相対速度によるドップラー効果 (周波数変位) を勘案すると、同機はインド洋南部に飛んだことが分かりました。

3. 初期の捜索

インド洋南部の数百万平方キロもの広大な海域を多数の航空機と船舶が捜索しました。日本の航空機 4 機と海上自衛隊の護衛艦もこれに加わりましたが、42 日間の捜索でも有効な手がかりは得られませんでした。海上捜索に並行して、フライトレコーダー等に装着している超音波を発する Underwater Locator Beacon (ULB) の探知も行われましたが、有効な情報は得られませんでした。

4. 海図の作成

オーストラリアの陸岸から約 2,500km 離れた捜索海域には正確な海図 (海底の地図)

が無く、海底検索にはまず海図の作成が必要とされ、71万平方キロの海域調査が行われ海図が作成されました。この種の調査としては、最大規模のものでした。

5. 大規模海底検索

2014年10月に海底検索が開始されました。当初は6万平方キロを予定していましたが、のちに12万平方キロに検索海域が拡大されました。しかし、検索海域がオーストラリアの港から検索船で片道5日ほどの遠距離にあり、悪天候の日も多く、困難な検索が続けられました。4隻の沈没船を含む多くの物体が識別されましたが、航空機に関する物は発見されませんでした。海底検索は、マレーシア、中国、オーストラリアの3国協議の結果、予定の12万平方キロの検索を終え、2017年1月に終了となりました。

6. アフリカ東岸にMH370の部品が漂着

2015年7月、インド洋西部レ・ユニオン島にMH370の動翼の一部であるフラッペロンが漂着し、2015年末から2016年にかけて、27個の航空機部品がアフリカ東部/南部の沿岸に漂着しました。これらのうち18個が、メーカー名や製造番号などからMH370の物と確認できています。海流、風、波浪を考慮した漂流経路推定では、海底検索の範囲はほぼ正しく、もう少し北側の2万5千平方キロの確率も高いとされ、オーストラリア政府は海底検索の延長を考えましたが、上記の3ヶ国合意の検索終了は覆りませんでした。

7. 検索費用は

今まであまり公表されなかった事項としては、海底検索費用の概算が出ています。海底検索費用は1億9千8百万オーストラリア・ドル（約176億円）となっており、費用分担は、マレーシア58%、オーストラリア32%、中国10%で、航空機登録国、事故現場の国、旅客の多数を占めた国、の順でした。ただし、これには初期の検索で多くの国が航空機や船舶を出して加わった費用は含まれていませんので、MH370不明事故の検索費用総額は算出されていません。

8. 結論

ATSBは最終報告書を次の要旨でまとめています。

「MH370便が行方不明となった原因は、同機の機体（およびフライトレコーダー）が発見されない限り、明白にはならない。毎日1千万人以上が利用している民間航空機で、機体が行方不明となって理由も分からず、乗客についても不明という事態はあってはならないと考える。乗客および乗員のご家族に深く弔意を示すものである。」

9. 追記

10月20日に多くの外電が「MH370海底検索の再開見込み」と報じています。機体が発見されたら検索費用を払うという契約のようですが、詳細はまだ不明です。

発見された漂着部品の一部です。

エンジンカウルの破片 ロールス・ロイスのマークの一部が見える。



右外側フラップ



(以上)